



六甲ケーブル

第48回テーマ:

六甲・摩耶山の活性化
について

講演内容

- ①六甲ケーブルについて
- ②六甲摩耶観光推進協議会
について
- ③六甲摩耶山の活性化促進案
について

実施日:平成19年3月17日(土)

午後1時～3時50分

場 所:六甲山YMCA 里見ホール



講師: ^{いまにし} 今西 ^{じゅんじ} 淳二さん
プロフィール

1947年生まれ、兵庫県出身。関西学院大学経済学部卒業後、阪神電気鉄道(株)入社。2003年より六甲摩耶鉄道(株)取締役社長。六甲摩耶観光推進協議会会長六甲山自治会副会長。

山上のアセビは五分咲き

近畿自然歩道沿いのアセビは五分咲きでした。気候も暖かくなってきて、いよいよ春間近だと感じます。山道法面のササ刈りを終えて、最初の春を迎えます。さて、どんな草花が芽吹いてくれるのでしょうか。楽しみです。

今期締めくくりのセミナーは大賑わい

市民セミナーでは「六甲・摩耶山の活性化」について、六甲摩耶鉄道(株)の今西社長と幹部の方にお話をいただきました。阪神グループの六甲摩耶鉄道は阪急との統合の渦中で、今後の動向が注目されています。六甲摩耶鉄道の代表のお話



市民セミナーの様子

に、参加者も興味津々だったようです、40名の方が参加されました。

震災後の低迷挽回に奮闘中

阪神淡路大震災で六甲山の観光客は激減して以降、六甲山を訪れる観光客は半分に減ったままです。山上で保養所を運営する事業者も半減し、個人所有の別荘が増えているそうです。

六甲ケーブルは六甲山上のキーステーションとして、集客のための様々な試みをされています。市民セミナーにも今西さんをはじめ、4名の方が来られ、奮闘振りが伝わってきました。

主催:六甲山自然保護センターを活用する会

協力:兵庫県立人と自然の博物館

後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

エコツーリズムなど多彩なイベントを展開

六甲摩耶観光推進協議会が中心となり、施設整備やイベント開催などさまざまな試みをされています。六甲山という資源を活かして、エコツーリズムや六甲摩耶学検定、夜景鑑賞ツアーなどに注力され、六甲山活性化に向けた多くの活動を展開されています。

阪急・阪神統合後にも期待

阪急と阪神が連携した効果では、4月からは山上と麓を繋ぐバスの利便性が向上するそうです。六甲ケーブルの乗客が減る懸念もありますが、阪神電鉄の「輸送奉仕」の経営理念の下、地域社会への貢献を第一に考えた結果だそうです。市民活動を展開する私たちも感銘を受けました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 山下 清志 さん

今回はじめて参加いたしました。六甲ケーブルについての題でケーブルの仕組みを詳しく話されて、興味深く聞かせて頂き、いい話題がひとつ増えました。夜景についても私は「井の中の蛙」で六甲の夜景は石宝殿が一番かと思っていましたが夜景マップを見てすごい...と思いました。帰り道山上駅、オリエンタルホテル、六甲ガーデンテラスと廻って帰りました。欲を言えば過去のケーブル、ロープウェイ等の写真・お話が聞きたかった。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金
公益信託自然保護ボランティアファンド
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金



第48回テーマ：六甲・摩耶山の活性化について



第48回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13：00～13：15
2. 講演：13：15～14：40
3. 休憩：14：40～14：50
4. 講演：14：50～15：15
5. 質疑応答：15：15～15：45

講演

- ①六甲ケーブルについて
- ②六甲摩耶観光推進協議会について
- ③六甲・摩耶山の活性化促進案について



3名の方にお話しいただきました

講演の挨拶(今西淳二さん)

六甲山上の事業活動を紹介し、われわれが何を狙っているかお話しします。皆さんにご理解いただき、山上のコミュニケーションの輪が広がられればと思っています。事業活動へのご協力も期待しております。こういう場で話をするのは苦手ですが、正直に、ありのままの姿をお話させていただきたいと思っております。



今西さん

講演内容

1. 六甲山観光の活性化にまい進

■六甲山観光の現状

当社は昭和7年に開業以来、今年で75周年を迎えた。幾多の災害を乗り越えながら六甲山の発展に貢献してきたと考えている。

平成17年のケーブルの輸送人員は、ピーク時の昭和37年と比べて7割強も減っている。阪神淡路大震災では半年間運休を余儀なくされ、以降、営業成績が極めて厳しくなった。現在も、震災前の50%にも満たない。山上で保養所を持つ会社も半数に減り、逆に個人で山荘を持つ人は増えている。

六甲摩耶鉄道(株)輸送人員・観光入込客数の推移

	H5	H7	H17
六甲ケーブル(千人)	750	279	351
六甲摩耶入込客(万人)	744	225	456
神戸全体入込客(万人)	2750	1074	2730

六甲山自治会の会員数の変化

	H4	H17	増減率
山上の事業経営者	27	19	-29.6%
保養所や山荘の所有者	227	113	-50.2%
個人の山荘所有者	133	168	26.3%

原因としては、不景気による保養所利用の減少や、施設の陳腐化や冷房の普及によって避暑地としての役割が低下したこと、ライフスタイルの変化や、週休二日制の普及などの要因が考えられる。

近畿の駅百選に選ばれたケーブル山上駅→

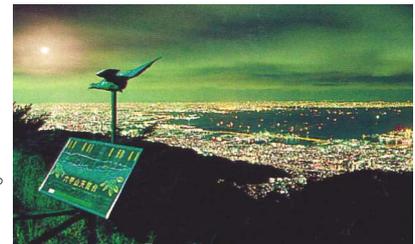


■これまでの具体的な取り組み

六甲摩耶観光推進協議会(六推協)が中心になって、行政や地域と連携しながら、さまざまな施設の整備やイベントの開催をしてきた。

エコツーリズムの推進：自然資源を活かして、自然や歴史を大事にした観光を起こす。昨年「六甲まや有馬エコツーリズムフェスタ」を実施した。山上の各施設でイベントを開催し、18万人が参加した。**六甲摩耶学検定を実施**：六甲・摩耶地区のエコツアーガイドを推薦する制度を立ち上げようとしている。その前提として、六甲摩耶学検定を導入した。

夜景観光の振興：六甲山からの夜景は、函館、長崎と並んで日本三大夜景と言われ、世界一といってもいい。日本初の試みとして、夜景ナビゲーターを養成して、夜景を鑑賞するツアーを実施した。合計27回実施して、非常に好評だった。



天覧台からの夜景

■活性化に向けてのさらなる取り組み

エコツーリズムの推進：自然や歴史、文化体験プログラム・エコツアーを開発していく。展望台や案内板などのハード面の整備も進める。

地域・事業者が一体となった活性化：名物のあじさいを全山に植樹し、「花の観光地」づくりを進める。植樹やエコツアーで地域と観光客の交流の場を創り出す。六甲山独自のブランドの開発もしていく。**資源の最大活用**：優れた立地と自然環境を活用し、文化体験プログラム・エコツアーなどを開発する。夜景を生かした商品を開発し、イベントを開催する。

2. 六甲山経営のインフラを堅持

■六甲山自治会の事務局を運営(総務部長 平田さん)

六甲山自治会は昭和29年に発足した。山上の住民や観光業者、運輸業者が集まり、山火事防止や樹木の保護整備などを目的に発足した。

山上には自治会と町内会がある。自治会は山上のゴミステーションや里道の街灯の管理など、公共的な活動をしている。町内会は、いわゆる世間一般で言うところの自治会で、住民のコミュニティや地域の活動をおこなっている。



平田さん

■六甲ケーブルは75周年（運輸部長 鴨谷さん）



鴨谷さん

日本のケーブルのほとんどは、大正時代から昭和初期にかけてつくられた。設備は長持ちするので、当社のレールには開業以来75年使っている部分もある。

部品は職人が手で磨いて作ったものなので替えない。自分達で直すので、その分ケーブルには非常に愛着を持っている。



ケーブルの巻き上げ機

3. 統合後の連携の動き

■六甲山オリエンタルホテルは6月に閉鎖



六甲山オリエンタルホテルは今年の6月15日に閉鎖することになった。阪急・阪神の統合の影響ではなく、3年ほど前から閉鎖は議論されていた。

バブル崩壊以降、六甲山上は厳しい状況にあったが、なんとか頑張って持ちこたえてきた。オリエンタルホテルは閉鎖することになったが、六甲山上から阪神グループが引き上げるということは絶対にない。むしろ、他の施設では力を入れて行こうと考えている。

■阪急・阪神統合後の変化

2006年の10月に阪急と阪神が統合し、六甲摩耶鉄道もグループの中にはいった。最近、統合効果が出てきた。阪急のエリアである宝塚や有馬地域と、阪神のエリアである六甲山の東側を連携させた旅行商品の開発ができた。

4月1日からは山上バスのダイヤを改正され、阪急六甲とケーブル山上駅の乗り継ぎがスムーズになる。連携は徐々に進んでいる。

とことこおもひで帖

六甲・摩耶・有馬を楽しむためのエコツーリズムパス。山上や有馬のたくさんの施設や、ケーブル・ロープウェイなど割引クーポンがついています。クーポンが約1万5000円分ついて500円で販売中。山上の各施設や、阪神電車の各駅長室、阪急六甲駅等で手に入ります。



とことこおもひで帖

質疑応答

ケーブルはどこ製ですか：車両の台車は日立製作所製です。システムはイタリア製です。

山上の循環バスを一軒茶屋まで延長できませんか：採算性とバスの台数・人員の問題等があり、現在のところ非常に難しいと考えます。

まとめ「輸送奉仕」（今西さん）

阪神電鉄グループは昭和初期から六甲山の開発を手掛けてきました。阪急との統合後の行く末を心配をされる方がいますが、最後まで全うするのが企業の社会的責任と考えています。

阪神電鉄の社是は「輸送奉仕」です。輸送サービスを通じて地域社会に貢献していくという理念です。私は入社したときに叩き込まれました。その理念は現在も脈々と受け継がれています。今後も公共交通機関として、お客様の利便性を第一に考えて事業を進めたいと思っています。

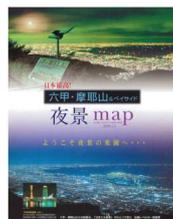
事務局より

六甲摩耶鉄道を中心にした広範な活動が理解できました。質疑応答では批判めいた意見もありましたが、強い期待の裏返しではないでしょうか。

六甲山の活性化は事業者、住民、山麓の市民みんなの課題です。当会も事業者とも連携を図りながら、観光とは直結しないものですが、市民主体の地道な活動を発展させたいと思います。

◆参考・配布資料など

- ・スライド、レジュメ
- ・六甲ケーブルについて
- ・六甲摩耶観光推進協議会
会員名簿・事業計画案
- ・ハイキングイベントのチラシ
- ・パンフレット「夜景 map」



好評の夜景マップ

◆参加者の声～アンケートより～

- ・六甲山上の企業の活性化への取組みが理解できた。
- ・はじめて聴く話も多く、参考になった。

◆参加者：40名（順不同・敬称略）

今西 淳二	平田 純一	鴨谷 敏明	清水 奨
村上市 定広	浅井 審一	八木 浄	宇杉 禎夫
兼定 力	岩木美寿雄	鈴木 圭子	亀川 甲
梅田 昌宏	矢野 文敏	山田 良雄	木下 宏
木下 千代	青木 孝子	長谷川友彦	里山 文英
関口 敏雄	山下 清志	山下 朋子	大上 卓男
馬場 典子	矢仲 英俊	森 康博	久保 順一
酒井 誠	小川 雄三	玉起 彰三	高光 正明
松井 光利	福永 一登	米村 邦稔	遠井 方子
桑田 結	寺田 啓	堂馬 英二	堂馬 佑太

六甲摩耶鉄道株式会社
取締役社長 今西 淳二
〒657-0101 神戸市灘区六甲山町一ヶ谷 1-32
TEL : 078-894-2071 FAX: 078-894-2088